

石原 彩野

Ishihara Ayano



地元で道の駅の駅長に

国道313号線沿い、鹿田にある道の駅醍醐の里。そこで駅長として日々奮闘しているのが石原彩野さんです。「もともと近くの出身で、ここにも小学生の頃おじいちゃんによく連れて来てもらいました」と石原さん。「結婚して県外に住んでいましたが、地元に戻って子育てをすることに、人とのつながりが持てる場所で働きたいと思うようになりました。そんな時、近所のおばちゃんがこのことを教えてくれたんです」と話します。当初はパートでレジを担当していた石原さんは、徐々に経理や庶務なども任せられるようになり、駅長代理を経て、令和5年12月に駅長に就任しました。

真庭人

MANIWA BITO

いろんな人とのつながりを大切に

「生産者さんや業者さん、地域の人、いろんな立場の方が来られる道の駅だからこそできることがあると思っています。ここをいろんな人がつながることができる場所になりたいんです」と話す石原さん。この1年間で、市内の事業者とのコラボ弁当の販売や、地域の花火大会に合わせた子どもが楽しめる催しの実施、能登半島地震の影響で販売が難しくなった商品を引き受けて販売する活動など、さまざまなことに取り組んできたそうです。「少しずつ外部との関わりも増えて、協力してくれる人も増えました。去年の夏からは、SNSで情報発信もがんばっています」と話します。

SNSで発信する写真を撮影



地域の生産者とのゴルフの後で一枚



石原 彩野さん(関)

令和元年に(有)醍醐の里に入社し、令和5年から道の駅醍醐の里の駅長を務める。大切にしていることは人とのつながり。休みの日には、年齢も性別も関係なく一緒に楽しめるゴルフを通じて、地域の生産者と親交を深めることも。忙しい日々の癒しは2人の子どもたち。その存在が元気と前向きな気持ちの源。

「たくさんの方に助けられて今があります。これからもいろんな人が集まって、それぞれの力を生かして活躍できる道の駅にしていきたいです。私もまだまだ未熟ですが、やりたいことがある人や困っている人がいたら、『うちでこんなふうにやってみん?』と提案できるような知識や経験を持つ人にいつかになりたいですね」と笑顔で語ってくれました。

